

第2回「環境講演会」開催

1月27日(月)、町内の中高生や町民を対象とした「環境講演会」が白糠高校体育館で開催されました。

11月に開催した1回目の環境講演会に続き、2回目となる今回は、環境省環境再生・資源循環局廃棄物規制課の水島大輝課長補佐が講師を務め、CE(サーキュラーエコノミー)の取り組みについて説明しました。

講演会には白糠学園6年生と庶路学園7年生、白糠高校1・2年生の約80人が参加しました。

サーキュラーエコノミー(以下、「CE」という。)とは、今まで廃棄されてきた製品や原材料を「資源」として再利用・再生し、廃棄物のゼロを目指す経済の仕組み、「循環型経済」のことです。

水島氏は「これまでの世界的な経済活動は、資源を大量に生産し、消費して廃棄する一方通行の『線形経済』で成長してきましたが、これから重要となるのは、資源を回収してリサイクルする円形の『循環経済』での成長です」と説明。また、国内の最終処分場がひっ迫している状況を説明し「ごみを減らさなければ24年後にはごみが捨てられなくなる」

と危機感を募らせました。

加えて、白糠町クリーンセンターに搬入されているごみについて「製品の中に入っている電池は、ドライバーで簡単に取り出せるものもあるので、リサイクルのためにも電池を外してほしい」と呼び掛けました。

最後に水島氏は、CEへの移行について「リサイクルの利用を前提とした製品を作るとか、循環される製品を消費者に選んでもらえるような仕組みを作ることが重要」と述べ、「皆さんには、ごみになるものは買わない、長く使える製品を選ぶ、マイバックを使うなど、身近なところから資源循環に取り組んでほしい」と呼び掛けました。



「資源循環は環境に優しいだけではなく、資源の自給率が低い日本には欠かせない取り組み」と話す水島氏

森江氏が町に寄付

町内在住の森江安さんから町に2億円の寄付をいただきました。白糠生まれの森江さんは、昭和30年から個人事業を始め、昭和40年(1965年)に森江産業株式会社(現・森江建設株式会社)を設立。同社の代表取締役として会社の発展や本町の経済活動に多大なるご貢献をされました。

また、永年にわたり町商工会理事および平成8年からは会長として、商工業の経営安定と振興発展にもご尽力されました。

このたび「会社設立60年を迎え、今年度で引退することになりました。長年、白糠町にお世話になったので、その恩返しをさせてください」と、森江さん個人から寄付の申し出をいただきました。

寄付金については、森江さんの意向に沿いまちづくり基金に積み立て、将来を担う子どもたちのための図書整備や、これまで町の礎を築いてこられた方々のために活用させていただきます。

森江さんの多大なる温かいご厚意に、心より感謝申し上げます。

